

地域おこし協力隊 活動記 Vol.90



「協力隊の活動通信」



「外国のお金クイズ」盛り上がりました

協力隊の穂坂修基（ほさかもとき）です。
「相馬ジャーナル」創刊準備号は、ご覧になりましたか。地域内の情報共有と住民に地域の価値や魅力を認識して好きになつてもらつたために、元出版社勤務の加賀隊員が主となり発行したのが「相馬ジャーナル」です。住民からのフィードバックを基に内容を練り直していききたいので、忌憚のないご意見・ご感想をお寄せください。また、取り上げてほしいテーマ、告知したいイベントや募集情報、注意情報などなど、なんでもかまいません。相馬の皆さんの声を大募集しています。

見た人からの反応があると嬉しいので、このページの欄外にある二次元コードを読み取って、ぜひ覗いて見てください。
七月二十四日～二十六日の三日間、小学生向け学習支援「夏休み宿題お助け隊」の講師を務めました。相馬地区の子どもたちは、たくさん地域のの人に見守られて育っているからか、初めて会う大人に対してフレンドリーだという印象を受けました。休憩時間に小学四年生のある子が「田んぼに住む生き物を増やして、いろんな種類の生き物を採りたい」、小学二年生のある子が「りんご畑で焼き芋をやりたい」と話してくれました。

子どもたちにも「相馬でやりたいことがあるのだ」と思い知らされました。ただ、やりたいことを大人が準備して、やってあげるのではなく、やりたいことを自分



和歌山県の学生、神奈川・群馬県の社会人が「相馬ねぶた」に参加！
相馬地区の関係人口が増えています。

たちで実現させていく経験を相馬地区の子どもたちにさせたいと考えます。相馬の子が相馬の地でしたいことができるよう、相馬の大人たちは支援してあげる必要があるのではないのでしょうか。もちろん地域おこし協力隊も、子どもたちの思いが本気なら全面サポートします。活動をする上で、子どもたちの声も大切にしていきたいです。

七月もたくさん行事やイベントに呼んでいただきました。五所地区の宵宮、JA相馬村の青年部通常総会、芽女倶楽部のこつじ活用講座、青年の会の黒石研修、相馬ハンタークラブの常時活動、相馬ねぶた愛好会の紙貼り・囃子の練習・町内運行…。とてもいい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

